

(別添 2)

No.	5
策定年月	令和3年7月
見直し年月	令和3年8月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 花巻地域 (作成主体:花巻市農業推進協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

花巻市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が5割強を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米、新規需要米等の生産拡大、雑穀、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする圃場の団地化のほか、品質の安定化、収量向上を目指した品種や栽培技術を導入し、生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

現在、花巻市においては、地域農業マスタープラン、花巻市水田農業ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、地域農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

当地域で主に生産されている小麦は、「ナンブコムギ」が221.1t、「ゆきちから」が1238.3t、「銀河のちから」が233.3tであり、県内外の加工業者に向けて販売されている。

しかし、連作による地力の低下や収穫時の天候不順による品質低下により、実需者からの需要量を生産できておらず、穂発芽性に強く、耐病性が高い品種の導入による需要に応じた生産が必要である。

大豆については、「リュウホウ」、「ナンブシロメ」を中心に461.6tが県内外の加工業者に向けて販売されている。

しかし、品種特性による等級比率の低下や、収量の不安定さにより安定供給が図れていないことから、栽培技術の向上を図るとともに、多収性、品質性の高い品種導入の検討が必要である。

### (2) 生産における現状と課題

・近年、麦、大豆ともに作付面積は横ばいとなっている。

・また、麦の単収については気象による影響を受け、長期的に不安定となっている。

・さらに、麦、大豆ともに単収が低い状態となっているが、その原因は連作による地力の低下や排水不良による湿害であり、土壌診断に基づいた施肥や土壌改良資材の投入による地力の向上、排水対策による湿害の回避が必要となっている。

おって、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、作業の効率化を図るための計画的に団地化等を推進することが課題となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ナンブコムギ	260	265	256	143	217	86	371	575	221
	ゆきちから	638	662	660	220	301	187	1,403	1,990	1,238
	銀河のちから	73	81	84	329	332	277	240	270	233
大麦	ファイバースノー	5	5	5	320	367	290	16	19	15
作物計		976	1,013	1,006	208	282	170	2,030	2,854	1,707

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	一括	334	343	340	145	126	136	485	433	462
作物計		334	343	340	145	126	136	485	433	462

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	一括	650	66.9%	687	68.2%	685	68.5%	
大麦		5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%	
作物計		655	67.1%	692	68.3%	690	68.6%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括	173	52.0%	167	48.7%	179	52.6%	
作物計		173	52.0%	167	48.7%	179	52.6%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

県の計画では4haだが、当該地域においては花巻市農業推進協議会水田収益力強化ビジョンの「団地加算助成」の要件である「同一農業者によって経営される2筆以上の農地がまとまりを構成し、2ha以上の面積があること」を準用し、2ha以上として団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。